

○平成22年度海外派遣研修

「看護学におけるシミュレーション教育の意義と

効果的な教授方法について」

看護学科 助教 黒田 暢子

○期 間 平成22年8月23日～8月30日(8 日間)

○研修先 国名, 都市名, 研修機関名

アメリカ、ハワイ州ホノルル、ハワイ大学医学部SimTiki Simulation Center

1. 研修の目的

現代は医療の高度化が進み、それに伴い看護基礎教育での教育内容の充実が期待されている。リスクマネジメントの観点からもシミュレーション教育は注目されており、臨床的な視点での学習効果が期待される教授法であり、今後本学においても、積極的な取り組みが重要ではないかと考えられる。

そこで、効果的な教授方法の修得をすることを目的に、教授方法の実際についてハワイ大学医学部SimTiki Simulation Centerで行われた看護教育ワークショップに参加した。

2. 研修の概要

2日間にわたり、講義及び演習(学生とインストラクター役を体験しながら)による研修が実施された。

以下に概要を示す。

1) シミュレーション教育とは

シミュレーション教育は、高価なSimulator(道具)や設備を揃えることだけではなく、学生を指導するインストラクター(教員)が教育目標に沿ったシミュレーション教育システムを作成し実施できるかということにある。

またその際、学生がそれぞれ共有体験できるようにFidelity(再現性)を考慮することも重要である。

2) SimTiki Simulation Centerの設備について

Center内には講義室、2つの訓練室、コントロールルームがある。SimulatorであるSimManは、コンピュータ制御され、コントロールルームだけでなくインストラクターが訓練室でPCを操作して状況設定や変更も可能であった。

他にもビデオカメラが設置されており、訓練室での様子を録画したり別の訓練室へ中継し観察することもできるようになっていた。

3) SimManの機能について

シミュレーションによりで学生が看護技術を習得するためには、Simulatorの機能と操作方法に関して、例えば胸部聴診や気管内挿管が可能であることだけでなく、橈骨動脈を触知する時には右手からでないとコンピュータが手技として感知しないといった約束事などを事前に伝え、正確に使用できるよう指導する必要がある。

4) シミュレーションの教授方法例について

- ①基本的考え方:シミュレーション教育の背景として、参加する方が効果的に学習できるという成人教育(Andragogy)の視点を取り入れている。また、学生を指導する教員はインストラクターとなり、シミュレーションの進行者の役割としてどのようにガイドしたらよいか(伝え方、介入するタイミング)ということを考えておく必要がある。
- ②イニシャルアセスメント(講義・演習):救急時のABCについて学ぶシナリオを用いて、シナリオの設定だけでは不十分な情報について、学生がインストラクターとのやりとりを通して確認作業を行いながらシミュレーションを進行していく。その際、インストラクターは、学習の目的・目標(何を求めているのか)について学生に適宜伝えたり、必要時修正する役割をもっている。
- ③“Simulation Orientation”:インストラクターがSimulatorの使い方やルールについて、学生のシミュレーションに関するレディネスに合わせて説明しながら、Simulatorを使用したシミュレーションの限界について学び、イマジネーションの必要性とについて理解してもらうよう行うことが大切である。
- ④チェックリストによる評価:実施したシミュレーションをどのようなチェックリストを用いて評価をするか、学習の目的・目標により変化するが、複数の評価者が共通認識して実施できるような「評価しやすさ」を考えて設定することが重要である。
- ⑤ディブリーフィング“GREAT Debriefing”:実施したシミュレーションについて学生へインストラクターからディブリーフィングをする(学習の目的目標について種明かしをする)ための方法のひとつとして、G(Gather Information:事実を共有する)、R(Reflect:振り返る)、E(Evalute:状況进行评估する)、A(Assess:分析する)、T(Transition:提案)の5つの視点で行う、それぞれの頭文字をとった“GREAT Debriefing”といわれる方法がある。
- ⑥シナリオの作成・開発“Instructional Design”:効果的な学習ができるシナリオの作成・開発には、カリキュラムデザインを評価するための様々な視点や、実施するために必要な資源やツールを整えることが重要である。

3. まとめ

今回の研修を通して、効果的なシミュレーション教育を実施していくためには、Simulatorだけでなく、インストラクター(教員)がいかに明確な教育目的・目標を考慮したシナリオ作成・開発、評価、ディブリーフィングという一連の流れについてそれぞれ配慮していく必要があることを学ぶことが出来た。

学生が実習場で体験し学ぶことには限界があり、その中でFidelity(再現性)があり安全性が保たれるシミュレーション教育は、今後ますます看護学において重要視されていくことが予想された。

今後は、学生がより効果的に看護技術が修得できるよう、本学におけるシミュレーション教育の発展に貢献していきたい。